

# 浜銀総研 News Release



2012年10月4日

## 緩やかな改善基調を維持した神奈川県内中堅・中小企業の景況感 ——企業経営予測調査2012年9月調査結果——

### 要旨

#### 【景況感】

神奈川県内中堅・中小企業の2012年9月末時点における業況判断D. I.（全産業ベース、業況が「良い」－「悪い」、回答社数構成比、%）は▲22と前回調査から3ポイント上昇し、3四半期連続で景況感が改善した。

今回の業況判断D. I. 値を製造業、非製造業の別にみると、製造業が▲22と前回調査比2ポイント上昇し、非製造業も▲22と同3ポイント上昇した。製造業では金属製品や鉄鋼・非鉄、一般機械、電気機械などでD. I. 値が上昇した。一方、非製造業ではサービスや建設でD. I. 値が上昇した。

3か月先（12月末）の見通しについては、非製造業が横ばいを見込む一方で、製造業で低下を予想していることから、全産業ベースの業況判断D. I. 値は▲24と9月実績に比べて2ポイントの低下と、景況感の悪化が見込まれている。

なお、調査票の回収の時期からみて、尖閣諸島の国有化に伴う日中関係の悪化の影響は、本調査の結果にはあまり反映されていないと考えられる。

#### 【来春の新卒採用計画】

2013年春の新卒採用計画について尋ねたところ、回答企業539社の採用予定者数は2012年春を3.3%上回り、4年ぶりの増加に転じた。製造業の大幅な落ち込みを非製造業の増加が上回ったことから、リーマン・ショック後の景気の悪化を受けて2010年春に大幅に落ち込んで以来、減少が続いてきた県内中堅・中小企業の新卒採用予定者数は全産業ベースでようやく増加に転じた。

【本件についてのお問い合わせ先】  
株浜銀総合研究所 調査部 宮下 敦  
TEL. 045-225-2375 (ダイヤルイン)

## 企業経営予測調査

2012年9月実施

## 四半期別（第165回）結果

対象企業 神奈川県内の中堅・中小企業を中心とした1,288社

(うち製造業419社、非製造業869社)

回収率42.3%（回答企業545社、うち製造業203社、非製造業342社）

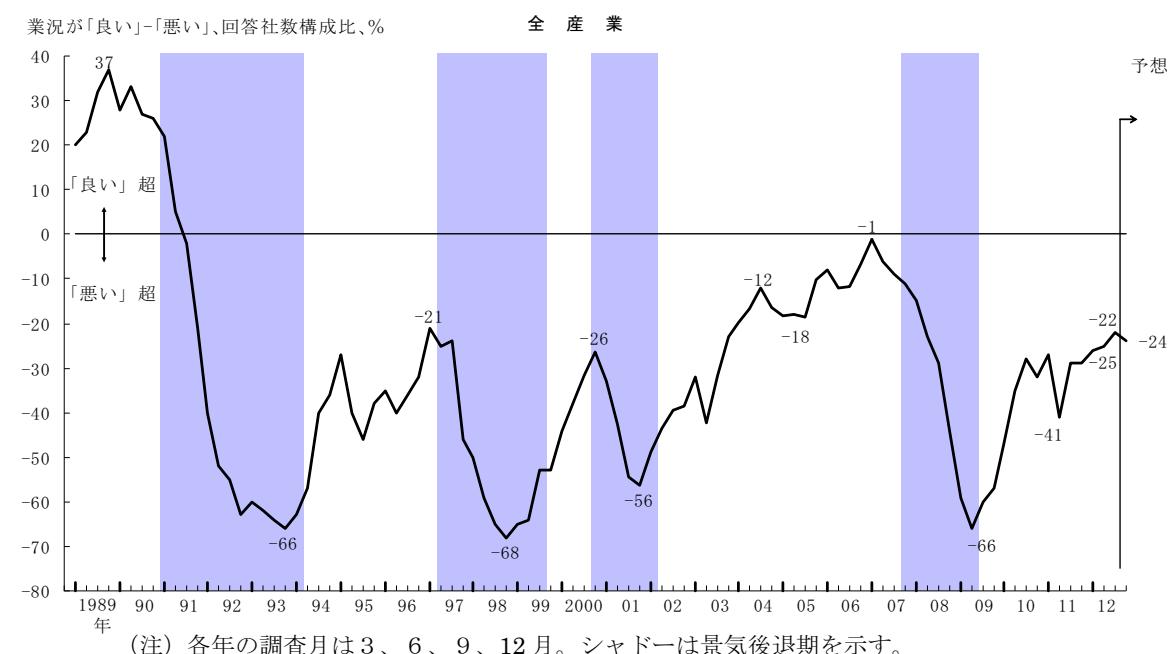
## 業況判断D.I.

(2012年9月末)

神奈川県内中堅・中小企業の2012年9月末時点における業況判断D.I.（全産業ベース、業況が「良い」-「悪い」、回答社数構成比、%）は前回調査の▲25から今回▲22へと3ポイント上昇し、3四半期連続で景況感が改善した。

今回の業況判断D.I.を製造業・非製造業別にみると、製造業が前回調査の▲24から▲22へと2ポイント上昇した。業種別には金属製品が前回調査の▲38から今回▲21へと17ポイント上昇したほか、鉄鋼・非鉄が11ポイント上昇の▲8、一般機械が7ポイント上昇の▲24、電気機械が6ポイント上昇の▲17とそれぞれ「悪い超」幅が縮小した。反面で、化学・石油は24ポイント低下の▲41、電子部品・デバイスも14ポイント低下の▲64と「悪い超」幅が拡大した。一方の非製造業についても前回の▲25から▲22へと3ポイント上昇した。業種別にはサービスが前回調査比15ポイント上昇の▲14となったほか、建設が11ポイント上昇の▲19と「悪い超」幅が縮小した。反面で、卸売が19ポイント低下の▲36、運輸・倉庫が11ポイント低下の▲19などと「悪い超」幅が拡大した。

## 業況判断D.I.の推移



## (3か月先の見通し)

12月末時点の業況判断D. I.は、全産業ベースで▲24と9月末の実績に比べて2ポイントの低下と景況感は悪化に転じると見込まれている。

製造業では、電子部品・デバイスや食料品などで景況感の改善が見込まれているものの、輸送機械や化学・石油、金属製品などで悪化が見込まれていることから、製造業全体ではD. I.値が▲28と9月末比6ポイント低下する見通しである。一方、非製造業は卸売や小売、飲食店・宿泊などで景況感の改善が見込まれていることから、非製造業全体では▲22と9月末比横ばいの見通しである。

県内企業の業況判断D. I.は、今回9月調査で緩やかに上昇して、3四半期連続の改善となった。円高基調や海外景気の減速を受けて輸出が減少に転じるとともに、エコカー補助金の終了に伴う駆け込み需要も盛り上がりに欠け、今夏のボーナス支給が低調だったことから、個人消費が弱含んだ。しかし、県内の民間需要は総じて底堅い推移となったことから、景況感は改善したと考えられる。

なお、今回の調査では、尖閣諸島が国有化された9月11日までに調査票の6割強を回収し、国有化をきっかけに起きた反日デモがピークを迎えた18日までに9割強を回収していることから、調査結果には日中関係悪化の影響はあまり反映されていないと考えられる。

## 足下の業況判断D. I.と3か月先の見通し

(業況判断 D.I.：業況が「良い」マックス「悪い」の回答社数構成比、%)

	2011年 3月末	2012年 6月末	2012年 9月末	2012年 12月末 (予想)
全産業	▲ 26	▲ 25	▲ 22 ( ▲ 22 )	▲ 24
製造業	▲ 27	▲ 24	▲ 22 ( ▲ 23 )	▲ 28
一般機械	▲ 24	▲ 31	▲ 24 ( ▲ 31 )	▲ 28
電気機械	▲ 43	▲ 23	▲ 17 ( ▲ 13 )	▲ 13
電子部品・デバイス	▲ 69	▲ 50	▲ 64 ( ▲ 75 )	▲ 50
輸送機械	▲ 6	▲ 7	▲ 12 ( ▲ 14 )	▲ 35
食料品	0	▲ 35	▲ 31 ( ▲ 12 )	▲ 19
化学・石油	▲ 78	▲ 17	▲ 41 ( ▲ 22 )	▲ 59
鉄鋼・非鉄	0	▲ 19	▲ 8 ( ▲ 20 )	▲ 8
金属製品	▲ 6	▲ 38	▲ 21 ( ▲ 43 )	▲ 38
非製造業	▲ 25	▲ 25	▲ 22 ( ▲ 22 )	▲ 22
建設	▲ 34	▲ 30	▲ 19 ( ▲ 17 )	▲ 20
不動産	0	▲ 10	▲ 4 ( ▲ 14 )	▲ 9
運輸・倉庫	▲ 20	▲ 8	▲ 19 ( ▲ 8 )	▲ 31
卸売	▲ 13	▲ 17	▲ 36 ( ▲ 6 )	▲ 28
小売	▲ 25	▲ 36	▲ 30 ( ▲ 37 )	▲ 25
飲食店・宿泊	▲ 29	▲ 33	▲ 26 ( ▲ 33 )	▲ 21
サービス	▲ 30	▲ 29	▲ 14 ( ▲ 32 )	▲ 18

(注) カッコ内は前回2012年6月調査時点における9月末予想である。

## (トピック)

## 来春の新卒採用計画について

2013年春の新卒採用計画について尋ねたところ（回答企業539社）、2013年春の採用予定者数は、全産業ベースで今春の採用者数を3.3%上回った。内訳をみると、製造業が18.2%減となつた一方で、非製造業は同19.5%増となった。全産業ベースの採用予定者数はリーマン・ショック後の景気の落ち込みを反映して、2010年春に28.3%減と大きく落ち込んだものの、今回の調査では製造業の大幅な落ち込みを非製造業の増加が上回り、ほぼ横ばいだった前回からようやく増加に転じた。

## 来春卒業予定者の採用計画

	今回調査(2012年9月調査)				
	今春採用者数	来春採用予定者数	増減人数(人)	増減率(%)	回答企業数
全産業	1,393	1,439	46	3.3	539
製造業	600	491	-109	▲ 18.2	202
非製造業	793	948	155	19.5	337

## 来春卒業予定者の採用予定者数実績比の推移

(今春実績比、増減率、%)

	2009年春	2010年春	2011年春	2012年春	2013年春
全産業	6.5	▲ 28.3	▲ 7.8	▲ 0.4	3.3
製造業	14.3	▲ 31.1	0.2	▲ 5.5	▲ 18.2
非製造業	1.9	▲ 26.5	▲ 10.6	3.3	19.5

(注)各年9月時点での翌年新卒採用計画に基づく回答。

なお、本プレスリリースの集計は速報であり、後日発行する報告書の計数と異なる場合があります。

以上

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。